

【小学生の部：文部科学大臣賞】

「Aくんがいたから」

愛知県・豊田市立市木小学校
6年 曳地 博 さん

Aくんは特別支援学級の子だ。あまり、人と話はしないし、聞いたことにも答えてくれない。今年、ぼくのクラスがAくんの交流学級になった。それまでぼくは、Aくんは人の言うことをあまり聞かないし、勝手な行動をする子だと思っていた。

ある日、運動会が近づき、Aくんが全員リレーでどう走るのがクラスで話し合いになった。Aくんはこれまで全員リレーで全部の距離を走ったことがない。だから、Aくんがどう全員リレーに参加するかということが問題になったのだ。話し合いで瑠偉くんが

「Aくんにとってもぼくたちにとっても最後の運動会だから、Aくんにはぼくたちと同じ距離を走ってもらおう。」

と言った。みんなも賛成した。そしてぼくはAくんといっしょに走る係になった。先生はAくんが走ることでクラスが不利になるかもしれないそれでもいいのかと話された。ぼくたちは先生にAくんが全部走れるように練習すると言った。そして、毎日僕たちは練習した。Aくんは、練習するたびに速くなり、学年で一位をとるほどになった。

そしてむかえた運動会。じつはぼくは、情けないことに前日に熱を出してしまった。でもAくんとともに優勝するために運動会に行った。全員リレーでAくんは全部の距離を今までで一番速く走って、三位でバトンを渡した。ぼくはAくんに追いつけず、後ろで

「あともう少し、がんばれ、がんばれ。」

と大きな声を出しただけだった。Aくんはがんばって走っていた。そのバトンを受けアンカーの瑠偉くんが死にものぐるいで走って見事逆転一位でゴールを決めた。瑠偉くんもAくんのために絶対に一位をとる気持ちだったと言っていた。結局、ぼくたち一組は全員リレーで総合優勝だった。うれしかった。運動会の片付けの後、Aくんのお母さんが一組のみんながAくんを支えてくれてありがたうと言ってくれた。あとで先生に聞いたがAくんのお母さんはAくんの走る姿を見て泣いていたそうだ。Aくんも成長できたと思った。

Aくんのお母さんは、ぼくたちのおかげでAくんががんばれたと言った。でもぼくはAくんのおかげでぼくたちががんばれたと思う。Aくんがいたから、

一組はまとまって練習したし、Aくんがいたから、ぼくもがんばって運動会に行った。瑠偉くんも必死で走った。ぼくは、すべてAくんのおかげだと思った。

運動会后、ぼくは人にやさしく接することができるようになった。前は、短気でよくけんかをしていた。でも、今は我慢できるようになった。母からもそれはほめられる。それから、人に頼られることが多くなった。特別支援学級の先生からは他の子のサポートも頼まれたりした。これもAくんのおかげだと思う。Aくんはぼくたちの最高の仲間だ。Aくんはぼくの生き方を変えてくれた。